

シンポジウム 2

病院を変えよう

— ボランティアを受け入れて —

座長 斉藤悦子 姫野 敬*

第59回国立病院総合医学会
(平成17年10月15日 於広島)

IRYO Vol. 61 No. 4 (257) 2007

キーワード 病院ボランティア, ボランティアの受け入れ, ボランティアコーディネーター

座長の要約

最近、病院ボランティアを受け入れる施設が急激に増えている。とくに病院機能評価の項目に取り上げられてから、その傾向が顕著となっており、国立病院機構においてもボランティアの受け入れが運営目標の一つにあげられている。ところが、病院ボランティアを受け入れはしたものの活動運営がままならずその支援に悩む施設や、これから受け入れようと考えている施設でもどのように受け入れ、どのような活動支援していけばいいのか悩んでいる施設も多いのではないだろうか？

そこで、本シンポジウムではすでに病院ボランティアを受け入れている各施設から、経営者、ボランティア、専任ボランティアコーディネーター、他職と兼任のコーディネーターなど、違う立場（視点）から、受け入れた現状や効果、問題点、注意点などを発表していただいた。なお、参加対象者としては、患者との関係が近く多くの施設でボランティア担当となっている看護部門の方やソーシャルワーカーの

方、また事務部門や医師部門のとくに経営側の方やボランティア事務等を担当する方、さらに今回は公開シンポジウムということで参加された病院ボランティアの方も含めて想定し進められた。

各シンポジストからは、職員だけでなくボランティアと患者までも含めたチーム医療と考えて受け入れることが重要であるとのこと、職員がボランティアを尊重し病院幹部とボランティア代表とのコミュニケーションがとれていること、コーディネーターがいつもボランティアの身近にいてすぐに対応が可能であること（専任者の配置）などがあげられた。また、病院評価を目的とした受け入れではなく、あくまで患者のために受け入れることやボランティアからの提言を取り入れていくことで患者にやさしい療養環境を獲得できることなどが強調された。逆に受け入れたとしても職員や病院幹部の理解や評価がない場合やボランティアの受け入れ形態やコーディネーターのあり方などによっては、ボランティアが減少したり考え違いをしたりして活動がうまくいかなる場合があることなども報告された。

元 癌研究会附属有明病院 ボランティアコーディネーター

*元 国立病院機構呉医療センター チーフボランティアコーディネーター（現 国立病院機構広島西医療センター 放射線科）

別刷請求先：姫野 敬 国立病院機構広島西医療センター 放射線科 〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号
(平成18年2月27日受付、平成18年11月17日受理)

Symposium 2: Change the Hospital by Accepting the Hospital Volunteers Etsuko Saito, and Kei Himeno

Key Words: hospital volunteers, acceptance of volunteers, volunteer coordinator